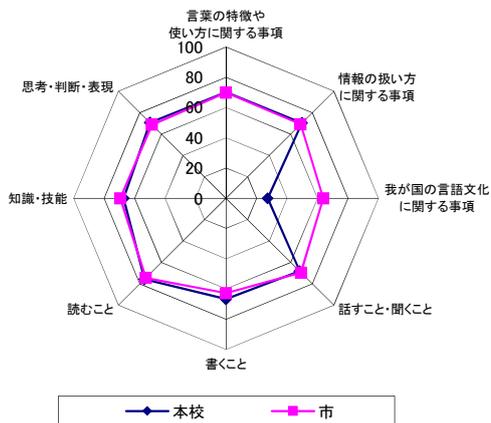


宇都宮市立城山東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	70.2	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	70.5	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	27.3	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	68.2	69.5	71.5
	書くこと	66.7	62.8	67.1
	読むこと	75.8	74.4	73.7
観点別	知識・技能	67.2	69.4	71.9
	思考・判断・表現	70.6	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

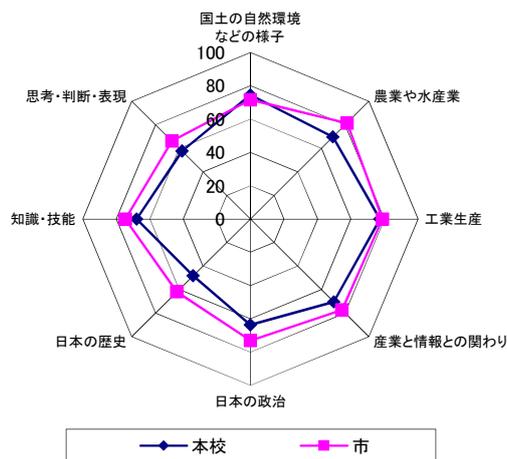
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○漢字の読み書きについてはほとんどの問題で、正答率が市の平均を上回っている。日々の学習の成果が表れていると考えられる。</p> <p>○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使えていると言える。</p> <p>●三字の熟語の成り立ちの理解については、正答率が市の平均を大きく下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・漢字の読み書きや敬語については、今後も家庭学習等で定着を図ることを継続したい。</p> <p>・熟語の成り立ちや漢字の成り立ちなど、語源に関する内容については丁寧な指導を行い、多くの文章を繰り返して読み、話や文章の中で使う機会を設ける。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○情報と情報との関係について理解しての設問では、正答率が市の平均と同等であった。</p> <p>●目的に応じて、文章を簡単に書くという問題では、正答率が5割となり市と同程度ではあるが、情報と情報の関係で理解したことを設問内容につなげて考えることに課題があると言える。</p>	<p>・得た情報をそのまま添付や書き写すのではなく、必要な情報を整理してまとめられるように指導する。</p> <p>・原因と結果に関係を見出し、結びつけて捉えることができるよう、文章の構成を考えたり表現をしたりする指導を行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語の理解についての正答率が、市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・漢字について書いて練習するだけでなく、漢字の由来についても興味をもって調べられるように、国語の授業や朝の学習の時間に一人一台端末を活用し、漢字の由来や成り立ちについて再度学習し直し定着を図る。</p> <p>・和語、漢語、外来語については、学習活動内に漢字辞典や国語辞典を意図的に取り入れ、読み書きだけでなく、意味を正しく理解して漢字が使用できるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○話の内容を捉える設問についても、正答率が市の平均を上回っている。</p> <p>○自分の意図に応じて、話の内容を捉える設問についての正答率が、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●意図に応じて、質問を工夫する設問については、正答率が市の平均を大きく下回っている。自分の意図を明確にしながらか質問につなげる力に課題があると考えられる。</p>	<p>・話す、聞く活動(話し合い活動)において、その目的を明確に捉えることができるように、「考えるときのヒント(比べる、つなげる、分類する、など)」や「みんなで学び合い伝え合おう」の教室掲示を活用する。</p> <p>・話す、聞く活動(話し合い活動)や一人一台端末を活用した意見交換の場で、どのような質問をすれば意図に近づけるかを考える場を設定するなどし、質問を工夫する力の向上を図る。</p>
書くこと	<p>○全ての設問についての正答率が、市の平均を上回るか、または同等であり基礎的な学力の定着が見られる。</p> <p>●自分の考えを書く設問では、グラフなどを理解し、内容を書くことはできたが、市の平均を上回ってはいないものの正答率が5割であり、自分の考えを明確に書くことに課題が見られた。</p>	<p>・授業などを活用し、自分の考えを書く活動を取り入れる。</p> <p>・書く目的や意図を明確にしながらか、書き表し方を工夫する活動を取り入れる。</p>
読むこと	<p>○ほとんどの設問で、正答率が市の平均と同等または、上回っている。読み取る力がおおむね身に付いていると言える。</p> <p>●文章全体の構成を捉える設問については、市の平均を下回っており、本校の正答率が5割であり、課題が見られる。</p>	<p>・物語文の学習や説明文の学習では、文章の全体の構成と段落ごとの要旨から文章全体の構成を捉えることができるよう指導理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.5	71.6	67.5
	農業や水産業	69.7	81.5	82.1
	工業生産	77.3	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	70.5	77.2	68.2
	日本の政治	63.6	73.1	77.9
	日本の歴史	48.3	62.0	65.8
観点別	知識・技能	67.9	74.6	74.5
	思考・判断・表現	57.7	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

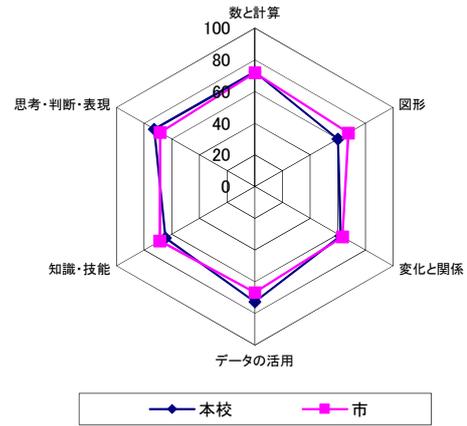
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害から生活を守る設備(防潮堤)の役割について問う設問では、正答率が10割と、よく理解しているといえる。 ○資料に着目して森林の働きを捉え表現する設問では、正答率が約9割とよく理解しているといえる。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに地図を読み取る設問において課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・周辺の海洋名や主な国の名称と位置、また日本の主な地形の名称と位置については、今後も世界地図や日本地図などの掲示資料を活用し、復習していくようにする。また、児童自身が日常的に自ら確認できる環境を整え、日本とつながりのある諸外国との関係について学ぶ際にも、その都度場所を確認するなど、関連付けて学習できるように工夫していく。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○米の産地を表している地域を選ぶ設問では、正答率は約8割であった。都道府県の位置と農作物の産地について、よく理解しているといえる。 ●米づくりにかかわるカントリーエレベーターなどの施設の役割について課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や総合的な学習の時間などで、資料の読み方、グラフの数値の比較などを通して、考えを表現する活動を多く取り入れていく。 ・食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉えて、表現することを通して理解を深める。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車工場の作業過程について問う設問では、正答率が10割と、よく理解しているといえる。 ○複数の資料に着目し、日本の輸出品の変化について考える設問では、正答率が約9割と、資料を的確に読み取る力がついてきているといえる。 ●キャリアカーと船の、自動車の輸送手段について比べ、違いを表現する設問において課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や映像教材等を活用し、視覚的に理解することができるようにする。 ・地域の特色や、工業の輸送手段であるキャリアカーや船の輸送の働きなどに関連付けながら、学習を進めていく。 ・交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して貿易や運輸の様子を捉えるようにする。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○メディアの特徴について問う設問では、正答率が9割とよく理解しているといえる。 ●資料に着目して店の発注システムについて捉え判断する設問では、正答率が低く課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、身の回りの情報メディアの特徴を理解させるとともに、その利便性や活用する上での問題点など、自分の生活と結び付けて考えられるように指導する。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ○税金について問う設問では、正答率が8割であった。 ●基本的人権の尊重について、生活の中の具体的な事例をもとに判断する設問において、課題が見られた。 ●政治の仕組みを判断する設問では、正答率が低く課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、自分たちの生活と結び付けて政治について考えていけるように指導を行う。 ・国会・内閣・裁判所に対する国民の役割について再度復習するなど、理解を深めていく。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○●豊臣秀吉の政策については正答率が7割をこえるが、大和朝廷や奈良時代に関する設問では正答率が低く、課題が見られた。外交と日本の文化が結びついていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時代ごとの外国との交流や日本独自の文化について整理することで、定着を図る。 ・政治の中心地や世の中の様子によって分けた、それぞれの時代について、人物の業績や優れた文化遺産と関連づけて捉えるようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.3	71.8	76.2
	図形	60.0	67.7	67.8
	変化と関係	62.1	63.4	62.7
	データの活用	72.7	66.7	61.5
観点別	知識・技能	64.5	68.6	70.7
	思考・判断・表現	72.7	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

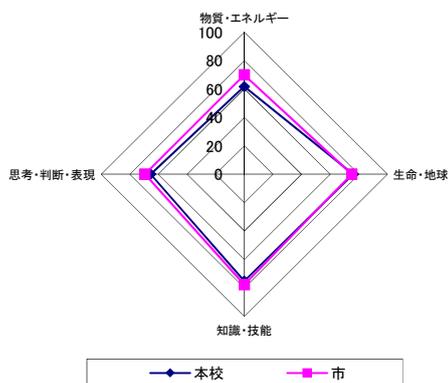
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数や分数のかけ算、わり算の計算の正答率は市の平均正答率を上回り、理解ができていると言える。 ●分数の除法の文章問題にあった図を選ぶ問題では、正答率が6割に満たず、問題場面を数直線に表すことに課題が見られる。	・小数や分数の計算では、計算するだけでなく、問題の場面を図や数直線に表してから立式する経験を積み重ね、理解が深められるように指導する。
図形	○合同な三角形を作図する問題では、正答率が9割以上となり、合同な図形の書き方について理解ができていると言える。 ●点対称な図形について対応する辺を求める問題や線対称な図形について対象の軸の数を求める問題では、正答率が低く、図形の性質の理解に課題が見られる。	・図形については、具体物を使って復習を行うことでイメージを膨らませるようにし、理解を深めさせたい。 ・朝の学習の時間や復習の時間を使って点対称や線対称の図形について、繰り返し復習をし、定着を図る。
変化と関係	○図から面積と数の割合を求め、どれが最も混んでいるかを考察する問題では、正答率が9割を上回り、理解ができていると言える。 ○速さの単位に関する問題の正答率は、市の平均正答率を上回り、速さの単位の間接関係を理解し、時速を分速や秒速に直すことができている。 ●基準量と比較量から割合を求める問題では、正答率が2割に満たず、課題が見られる。	・朝の学習やまとめの学習等を用いて、割合や割合のグラフについては、問題文から基準量や比較量が何なのか、それぞれが何を表しているのか等を確認しながら復習し、定着を図る。 ・式や図、言葉を使って、自分の考えを伝える活動を今度も積極的に取り入れ、表現力を高めていく。
データの活用	○折れ線グラフの読み取りの問題では、正答率が9割を上回り、理解ができていると言える。 ○欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選ぶ問題では、市の平均正答率を上回り、必要な情報を自分で取捨選択することができている。 ●円と四角形を組み合わせた図形の面積の求め方から、どの図形の面積を求めたいか選ぶ問題の正答率が低い。	・複雑な図形の面積を求める問題については、答えを出すだけではなく、どのように考えたのかやどの面積を求めているのかを説明する活動を取り入れ、理解を深めさせる。 ・算数だけでなく、他教科においても学習した平均値、代表値などのデータやグラフの読み取りを取り入れる場面を設け、理解を深めさせたい。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.7	69.9	67.8
	生命・地球	76.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	75.2	77.8	78.4
	思考・判断・表現	65.4	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「水溶液の性質」では、アルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法を推測できるかを問う設問において正答率が9割を超え市の平均を大きく上回った。</p> <p>●振り子のきまりを実生活に結びつけて考えられるかを問う設問では、正答率が3割であり市の平均を下回っている。</p> <p>●電磁石の性質を理解して、応用することができるかを、電磁石の性質を利用した道具で、空き缶をつり上げたりはなしたりできるように修正する設問において課題がみられる。</p>	<p>・ふりこの学習では、ふりこの長さ・重さ・振幅が1往復する時間との関係を復習し定着を図る。</p> <p>・電流の強さによって強い磁力を生み出したり、電流を止めると磁力が無くしたりすることを、生活の中で実際に活用しているものをもとに考えるなどして理解を深める。</p>
生命・地球	<p>○「植物の発芽と成長」では、対照実験を行う理由とそれによって発芽の条件を理解しているかを問う設問では、正答率は市の平均を上回った。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」では、室内の時間と二酸化炭素の割合のグラフから適切な換気の頻度について問う設問では、正答率が7割だった。</p> <p>○●「生物とかんきょう」では、食物連鎖については多くの児童が理解していたが、食物連鎖を利用した農法については課題が見られ、正答率も市の平均を下回った。</p> <p>●「月と太陽」では、月の満ち欠けや動きについて問う設問において課題がみられる。</p>	<p>・自分たちの生活と食物連鎖が密接に関わっていることを具体的な例を挙げるなどして理解できるように支援する。</p> <p>・月の見え方は、月と太陽と地球の位置関係を正しくとらえ、球体に光があたったときにどのように見えるのかを捉えることが困難であることから、ボールなどを用いた実験や、動画によるシミュレーションなどを利用して理解を深めたい。</p>

宇都宮市立城山東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)の計画的な実施 ・朝の学習(ぐんぐんタイム)におけるT・T(複数の教員での指導)ぐんぐん応援隊の実施 ・既習の計算を織り交ぜた復習問題の実施 	<p>国語、算数ともに、正答率が市の平均を上回ったものと、やや下回ったものがあった。漢字や計算などの繰り返し学習をさらにしっかりと行い、確かな力を着けさせたい。</p> <p>アンケートにおける「学校の授業がどの程度分かりですか」(3年生以上)の設問では、8割以上が肯定的な回答をしている。しかし「勉強が好きですか」の設問では、学年が上がるごとに肯定的割合が下がり、高学年での学習が難しくなっていることが原因と思われる。学習への意欲が高められるよう分かりやすい授業の実践を進めたい。</p>
思考力・表現力を育むための効果的な指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えるときのヒント」の活用(比べる、つなげる、分類する、理由づける、見通す、等) ・話し合い活動の日常化(ペア・グループ等) ・話し合いのねらいと視点の明確化 ・指導法についての校内研修の実施 	<p>アンケートにおいて、「ものごとを比べながら(中学年)いろいろな視点や立場から(高学年)考えている」と回答した児童は約8割であり、市の平均を上回っている。</p> <p>学習内容定着度調査における「思考・判断・表現」の観点を見ると、国語、社会、算数、理科ともに市の平均を下回っている。引き続き、ねらいを明確化しながら「考えるときのヒント」を活用していきたい。</p>
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の活用(児童・保護者) ・地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」の周知・徹底 ・年2回の「家庭学習がんばり週間」の実施 	<p>アンケートにおける一日の学習時間を見ると、どの学年も地域学校園で目安としている時間(低学年…20分、中学年…40分、高学年…1時間)の家庭学習がおおむねできていることが分かるが、休日の学習時間は少ない傾向が見られる。</p> <p>「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」(4～6年生)については、肯定割合が8割を上回ったが、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」については、約5割と市の平均を下回った。引き続き「宿題+1」を合言葉に進めていきたい。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・今年度は特に、朝の学習における複数体制での指導による基礎・基本の定着に力を入れてきた。6年生の市の調査や、3～5年生の学年のまとめのテストにおける結果を見ると、少しずつ成果が出てきている。次年度も引き続き、宮っ子学習ステップアップシートの活用や既習の計算を織り交ぜた復習問題の作成と活用、朝の学習におけるT・T(ぐんぐん応援隊)の充実などにより、基礎・基本の定着を図っていく。

・6年生の市の調査では、どの教科においても市の平均に近く、知識や技能は少しずつ育ってきているので、次年度も、操作的・体験的な活動、話し合い活動を充実させるとともに、活用問題にも取り組ませていくことで、思考力・表現力の育成を図っていく。

・今年度は、パソコン(端末)を一つの手段として使ったり、話し合い活動を積極的に行ったりすることで、友達と自分の考えを比べたり、分類したり、理由づけたりと学校全体で「考えるときのヒント(思考のすべ)」について研究し、思考力・表現力の育成に取り組んだ。6年生の定着度調査からも成果が少しずつではあるが出てきているので、次年度も、話し合い活動を充実させるとともに、「考えるときのヒント」をさらに活用し、思考力・表現力の育成を図っていく。

・家庭学習については、次年度も、学校全体での共通理解のもと、地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」や「家庭学習頑張り週間」を進めていきたい。